

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般小売店〔衣 料品・雑貨〕 （経営者）	販売量の動き	・売上高は前年同月比115%で、例年以上に伸びている。観光客の売上は例年どおりだが、地元客の売上が増加しているのが要因である。今後も地元客対象の商品開発を強化していく予定である。
		観光型ホテル （営業担当）	来客数の動き	・修学旅行の人数の伸びが大きく寄与している。
	やや良く なっている	高級レストラン （営業担当）	販売量の動き	・航空運賃の値上げによる観光客減少を懸念していたが、4月もあと数日を残して前年同月比で10%前後の売上が増加しており、予想に反して好調である。
		その他飲食〔居 酒屋〕（経営 者）	来客数の動き	・連休前は例年来客数が減少するが、今年は例年の107%の来客数である。
		通信会社（店 長）	単価の動き	・携帯電話に関しては価格よりも機能を重視する傾向がみられ、客単価が上昇している。
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・施設利用者は、3か月前の平成18年1月は前年同月比で111.7%、今月は4月24日現在で116.7%、これからすると沖縄への入域客数も前年同月比で大幅増になる。一般団体、主に中学の修学旅行、家族連れなどが目立つ。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・展示場、完成見学会等の来場客数が増加している。来場客の約6割が土地を持っていない層であるが、土地も含めて積極的に検討している客が確実に増えている。
	変わらない	百貨店（担 当者）	来客数の動き	・気温が例年よりも低下し若干衣料の動向が鈍っているが、依然として食品、住居用品関連が好調を維持している。衣料は来客数では前年割れとなるが、客単価では前年を超え、合計では前年同月比で1.1%の増加である。食品は来客数においても好調を維持し、前年同月比3.0%の増加である。月を通して若干気温、天候の影響を受けるが、食品、住居にけん引され全館にて最終的に前年同月比4.0～5.0%増で落ち着く見込みである。
			コンビニ（経 営者）	単価の動き
		コンビニ（エ リア担当）	客の様子	・新商品において、お試し期間中の特価では好調に動くが、通常価格に戻ると止まる。特価のような目玉商品で売上の底上げを狙うが、単価の低下を補う販売数には達しない。
家電量販店（従 業員）		客の様子	・ここ3か月の客の買物を見ていると、高くても内容の良い商品を選ぶ客と、とにかく安い商品を選ぶ客に二極化し始めている。前者は経済的な余裕を感じるが、後者は経済的にほとんど余裕がない感じすら覚える。より高級な店に向かう客と、購入できない客に分かれていることも考えられる。	
その他専門店 〔楽器〕（経 営者）		販売量の動き	・観光客は多いが、地元客が商店街から郊外の大型ショッピングセンターや新都心新商業地域に確実に移行している。	
その他のサー ビス〔レンタ カー〕（営 業担当）		来客数の動き	・観光客の入込状況が、2月、3月と好調に推移していたが、4月に入ってから多少落ち着いた感がある。	
		やや悪く なっている		
	悪く なっている			
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	輸送業（営業・ 運営担当）	受注量や販売量 の動き	・大手量販店の売上増大により受注量は増加しているが、一方では、一般店の売上減による受注量減少もみられる。総合的にはやや増加傾向にある。

	変わらない	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・提携企業の合併に伴う企業間調整が長引き、出し控えをしているのか具体的な案件引き合いが減少している。一方、超高速回線の引き合いが複数出てきている。件数では前月並みである。
		不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・客の動きが例年どおりである。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	食料品生産業（財務総務担当）	それ以外	・原料肉価格や原油高による資材価格の高騰、及び円安の定着による仕入商品の高騰の影響を受けている。その反面、売価は据置きである。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	学校〔専門学校〕（就職担当）	採用者数の動き	・県外、県内企業の求人数は増加傾向にあり、その結果、採用内定者数も増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・最近の傾向で特定職種は相変わらず求人・派遣依頼が続いているが、それ以外は目立った変化は無い。求職者は若干増えている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・全体的に求人数が伸び悩んでいる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月現在では、12月と比較すると新規求人数は51.5%増の4,263人である。一般求人は41.5%増で3,288人（構成比77.1%）である。パート求人は99.1%増の975人（構成比22.9%）である。3月の新規求人は飲食・宿泊、不動産、卸売・小売、医療・福祉、情報通信、運輸、サービスの分野で増加し、金融・保険の分野では減少している。有効求人倍率は0.08ポイント上昇し0.60倍である。月間有効求人数は25.2%増加の11,303人である。保育所の民間委託、新年度の契約切替えにより保育士の求人が増えつつある。一方で、業務縮小により100人以上の転籍を行った企業もある。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	